

2019年度 I R 専門委員会活動報告書の公表にあたって

I R 推進室では、教学データの収集・分析を行い、分析結果を I R 専門委員会の審議を経て、学内の関係組織に報告しております。

これまで本委員会は、GPA や TOEFL-ITP®等の指標を用いて、教学改革に資する分析を行ってまいりました。

分析結果は、データの性質上、学外に公表できる内容が限られておりますので、毎年4月に行われる2年次～4年次対象のアンケートの分析結果の一部をご報告いたします。昨年1年間の学びを振り返って、「授業に対する満足度」及び「スキル」「能力」「技術」に関する力を身につけることができたかどうかを問う項目について、専攻・学年・志望順位別に分析しました。ご高覧いただけましたら幸いです。

本学では、2018年度に現代教養学部を4学科12専攻から5学科12専攻に再編し、リベラルアーツ教育の実績を基盤に、国際性・女性の視点・実践的学びを重視した教育を展開しております。今年度のアンケートから、新課程による学生(2019年度2年次)の集計結果が加わります。データの蓄積により、新課程の成果を検証していくと同時に、引き続き客観的なデータに基づく分析を行い、教学改革に資する活動を続けてまいりたいと思います。

2019年9月

東京女子大学 I R 専門委員会

2019 年度実施の 2～4 年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年 4 月のオリエンテーション時に、新 2 年次、新 3 年次、新 4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「在学生アンケート」と表記）を行っている。このアンケート調査は、在学生が本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、主な項目の分析結果を中心に報告する。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：質問紙調査

対象：東京女子大学に在籍している 2～4 年次学生、3185 名（4 月 1 日時点）

（うち：2 年次学生 1025 名、3 年次学生 1072 名、4 年次学生 1088 名）

調査期間：2019 年 4 月 1 日～2019 年 5 月 15 日

有効回答数：2703 名

（うち：2 年次学生 944 名、3 年次学生 877 名、4 年次学生 882 名）

有効回答回収率：84.9%

（うち：2 年次学生 92.1%、3 年次学生 81.8%、4 年次学生 81.1%）

調査項目：2017 年度までに実施してきた調査結果を踏まえ、「学習」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「図書館」、「その他施設」などの項目で構成している。また今年度から、新たな質問項目（各試験方式に対して、どの程度授業内容が身についたか・各試験方式に対する準備時間・必修以外の授業を履修する際に、何を重視するか）を追加した。

本報告書では、2 年次、3 年次、4 年次などの表記が出てくるが、在学生アンケートは、年度初めに実施しているため、例えば、2 年次の授業に対する満足度は、当該学生が 1 年次であった時の授業の満足度を示す。同様に、3 年次の授業に対する満足度は当該学生が 2 年次であった時の授業の満足度、4 年次の授業に対する満足度は当該学生が 3 年次であった時の授業の満足度のことである。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（ p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ (small), $\eta^2 = .06$ (medium), $\eta^2 = .14$ (large)を用いた。

なお、参考のため過去 5 年間の回収率（2～4 年次学生全体）を表 1 に示しておく。回収率は、全ての年度において 8 割を超えている。

表 1 年度別に見た 2～4 年次アンケートの回収率

2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
84.4%	84.7%	82.8%	83.2%	84.3%	84.9%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラム」、「学科（専門）科目」の3つのカテゴリー別に、過去1年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合は、3つのカテゴリー全てで9割近いことから、授業に対する満足度は全般的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度

	全く満足 していない	満足 していない	どちらか と言えば満足 していない	どちらか と言えば満足 している	満足 している	大変満足 している	履修 していない
	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)
授業全般	0.6 (17)	1.8 (49)	7.7 (208)	34.9 (944)	45.6 (1233)	7.3 (197)	
全学共通 カリキュラム	0.6 (15)	2.2 (59)	8.7 (234)	35.9 (971)	42.5 (1149)	7.4 (200)	0.6 (16)
学科(専門)の 授業	0.7 (19)	1.8 (50)	6.8 (184)	30.0 (811)	45.1 (1219)	13.0 (351)	0.4 (10)

注：各項目について欠損値（55～59人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、学年別、志望順位別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表10）。

表3 専攻別にみた「授業全般」に対する満足度

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.28	0.907	130	$\eta^2 = .030$
哲学	4.56	0.935	116	
日本文学	4.57	0.915	275	
歴史文化・史学	4.53	0.845	255	
英語文学文化	4.53	0.839	195	
国際関係	4.40	0.807	377	
経済学	4.24	0.889	198	
社会学	4.61	0.800	176	
コミュニティ構想	4.53	0.734	57	
心理学	4.76	0.809	213	
コミュニケーション	4.41	0.765	298	
言語科学	4.63	0.747	161	
数学	4.26	1.083	101	
情報理学	4.26	1.002	95	
全体	4.48	0.863	2647	

表4 専攻別にみた「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.24	0.908	129	$\eta^2 = .018$
哲学	4.42	1.023	116	
日本文学	4.48	0.987	272	
歴史文化・史学	4.53	0.831	255	
英語文学文化	4.46	0.975	195	
国際関係	4.29	0.980	378	
経済学	4.22	1.009	199	
社会学	4.55	0.898	177	
コミュニティ構想	4.54	0.803	57	
心理学	4.61	0.860	213	
コミュニケーション	4.38	0.837	298	
言語科学	4.50	0.991	160	
数学	4.29	1.038	100	
情報理学	4.20	1.043	94	
全体	4.41	0.946	2643	

表5 専攻別にみた「学科（専門）の授業」に対する満足度

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.35	0.989	129	$\eta^2 = .044$
哲学	4.77	0.882	115	
日本文学	4.76	0.893	272	
歴史文化・史学	4.64	0.876	255	
英語文学文化	4.63	0.895	195	
国際関係	4.39	1.022	378	
経済学	4.28	1.050	199	
社会学	4.69	0.846	177	
コミュニティ構想	4.63	0.837	57	
心理学	5.01	0.853	214	
コミュニケーション	4.59	0.908	297	
言語科学	4.61	1.000	161	
数学	4.36	1.087	100	
情報理学	4.32	1.039	94	
全体	4.58	0.961	2643	

表3～表5には専攻別に授業に対する満足度に関する3項目の平均値および標準偏差を示している。これらの表を見ると分かるように、専攻間で多少の差はあるにせよ、全体的にみて授業に対する満足度が高く、専攻による大きな違いは見られないと言える。

表6～表8では、授業に対する満足度について学年別および志望順位別に比較した。学年別にみると、学年が上がるにつれて満足度も増える傾向にある。また志望順位別では、志望順位が高いほど授業に対する満足度が高いことが分かる。しかし、効果量を見ると、学年間および志望順位間にさほど大きな違いは見られない。

表6 学年別および志望順位別に見た「授業全般」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.35	0.865	930	$\eta^2 = .040$
	3年次	4.37	0.862	854	
	4年次	4.73	0.806	864	
志望順位	第一志望	4.65	0.834	769	$\eta^2 = .034$
	第二志望	4.64	0.826	396	
	第三志望	4.47	0.843	405	
	第四志望以下	4.30	0.871	1060	

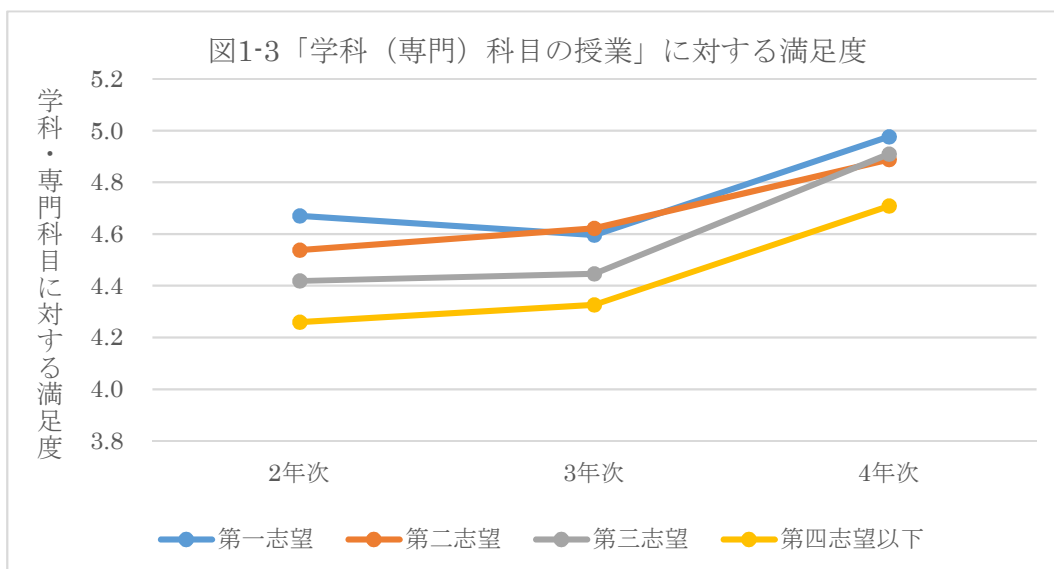
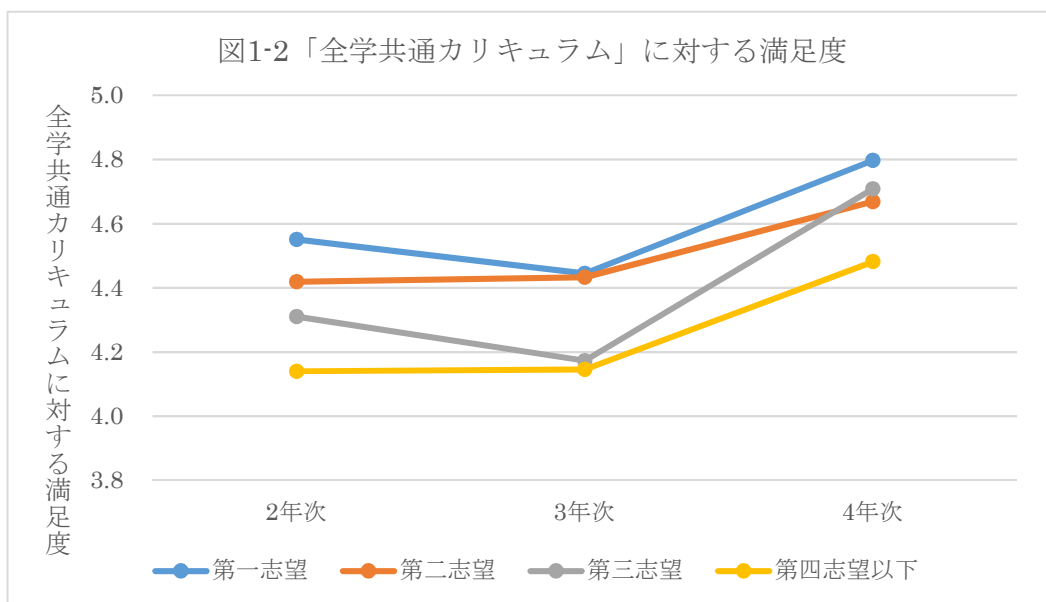
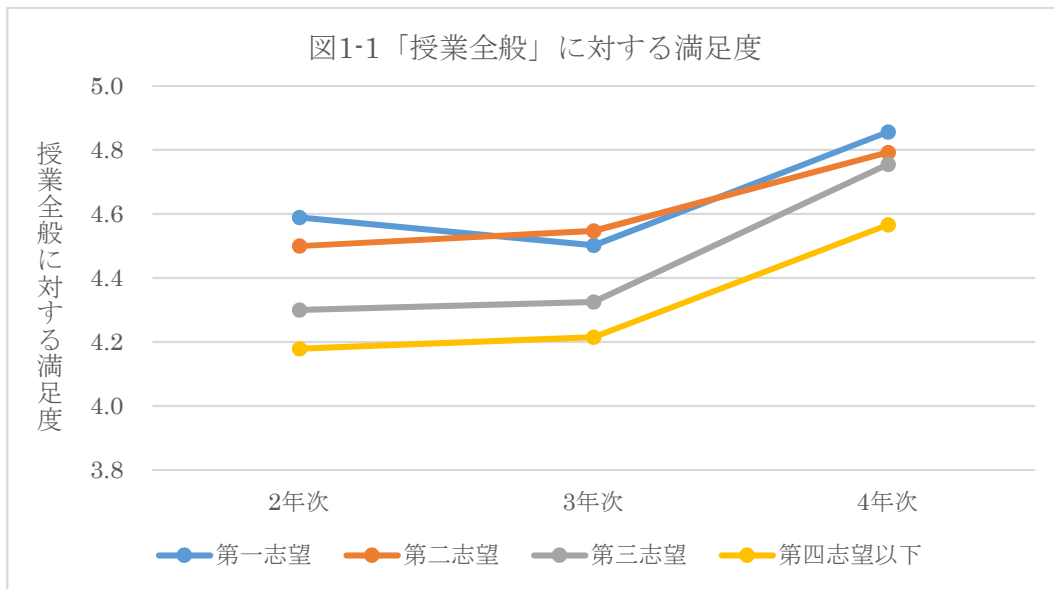
表7 学年別および志望順位別に見た「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.32	0.892	925	$\eta^2 = .031$
	3年次	4.28	1.003	858	
	4年次	4.65	0.897	861	
志望順位	第一志望	4.60	0.888	768	$\eta^2 = .028$
	第二志望	4.53	0.978	392	
	第三志望	4.41	0.935	406	
	第四志望以下	4.24	0.941	1059	

表8 学年別および志望順位別に見た「学科（専門）の授業」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.43	0.938	925	$\eta^2 = .040$
	3年次	4.46	1.011	857	
	4年次	4.86	0.872	862	
志望順位	第一志望	4.75	0.912	768	$\eta^2 = .025$
	第二志望	4.71	0.964	394	
	第三志望	4.60	0.943	405	
	第四志望以下	4.41	0.965	1058	

図1-1～図1-3では、さらに授業満足度について、学年別および志望順位別の違いを同時に示しておく。授業満足度に関する3項目いずれにおいても、この図で分かるように他の学生より授業満足度が低い傾向にある第4志望以下の学生も、学年が上がるにつれて満足度が上がっていることが見て取れる。



さらに、上記3項目の得点を合計し項目数で割った項目平均 (M=4.50, SD=0.833, 最大=6, 最小=1, 因子分析で一次元性も確認。α = .914) を算出し (以降「授業満足度得点」とする)、専攻別、学年別および志望順位別に満足度得点を比較した。

表9は、専攻別に見た授業に対する授業満足度得点の分析結果である。全ての専攻で授業満足度得点の平均値が4を越えており、授業に対する満足度は比較的高いと言える。効果量を見ると $\eta^2 = .032$ であり、授業満足度得点に関する各専攻の差はそれほど大きいものではないことがわかる。

表9 専攻別に見た授業に対する授業満足度得点

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.29	0.892	129	$\eta^2 = .032$
哲学	4.59	0.852	115	
日本文学	4.60	0.864	271	
歴史文化・史学	4.57	0.792	255	
英語文学文化	4.54	0.812	195	
国際関係	4.40	0.793	373	
経済学	4.26	0.872	198	
社会学	4.62	0.770	176	
コミュニティ構想	4.57	0.721	57	
心理学	4.80	0.769	212	
コミュニケーション	4.47	0.756	296	
言語科学	4.60	0.800	157	
数学	4.31	0.988	100	
情報理学	4.26	0.949	94	
全体	4.50	0.833	2628	

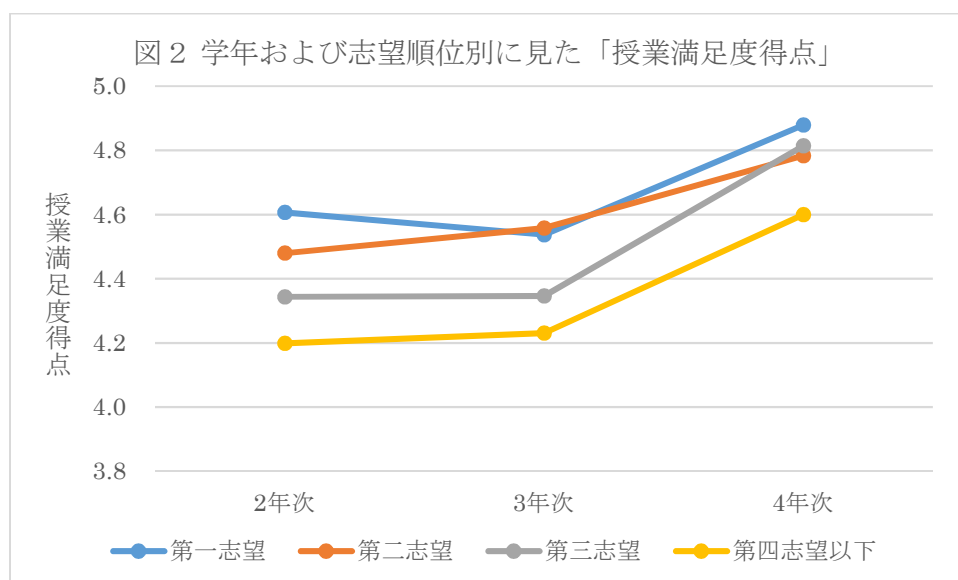
次に、学年別および志望順位別に見た授業満足度を比較した (表10)。学年別では、2年次の平均値が4.37、3年次の平均が4.39、4年次の平均が4.75と学年が上がるにつれ授業満足度得点が高くなってはいる。しかし、効果量 ($\eta^2 = .045$) を見る限り、その差はわずかと言える。

本学に対する志望順位別に授業満足度を見た場合、志望順位が高ければ授業満足度が高くなる傾向だが、効果量を見ると $\eta^2 = .035$ と小さく、これもまたその差は小さいと言える。

表10 学年別および志望順位別に見た授業満足度得点

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.37	0.833	922	$\eta^2 = .045$
	3年次	4.39	0.846	849	
	4年次	4.75	0.761	858	
志望順位	第一志望	4.68	0.805	764	$\eta^2 = .035$
	第二志望	4.63	0.817	390	
	第三志望	4.51	0.780	403	
	第四志望以下	4.32	0.845	1054	

授業満足度得点と、学年・志望順位の関係性をもう少し詳しく見ていくと、図2のように、学年があがるにつれて授業満足度が高くなっていくことがわかる。3項目を個別にみた場合と同様、志望順位が低くても学年があがると満足度も高くなっていくことがわかる。効果量を見ると、学年別では $\eta_p^2 = .036$ 、志望順位別では $\eta_p^2 = .031$ 、交互作用も $\eta_p^2 = .002$ と小さいため、それぞれの差はさほど顕著ではないことがわかった。



(2) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

「過去1年間の学びを通じてどのようなスキルを身につけることが出来たと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について、「全くそう思わない」(=1)から「非常にそう思う」(=6)の6件法で尋ねた。

その結果が図3である。「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて要点をつかむ力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「課題に応じて適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の5項目は、「非常にそう思う+そう思う+どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答が昨年に引き続き7割を超えており、他の項目も6割を超えているため、多くの学生がこの10項目の能力を身につけていると考えている事が分かった。しかし、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」が昨年よりも低くなってしまったため(66.0%⇒62.5%)、改善策を考える必要がある。

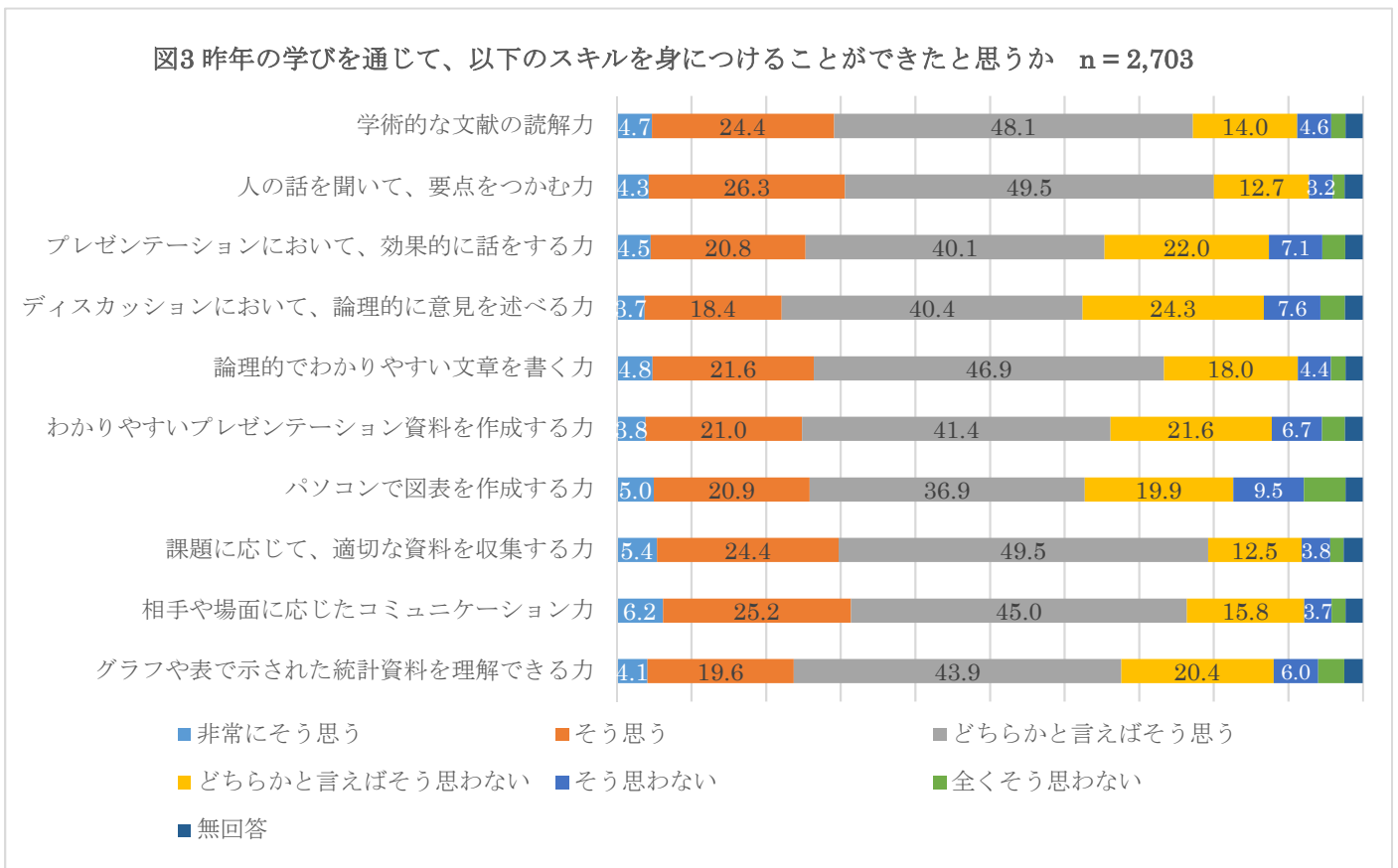


図3に示す10項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=3.93, SD=0.808, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.929)として、以降の分析に使用した。

専攻別にスキル総合得点を見ると（表 11）、一番高い専攻で M=4.13、一番低い専攻で M=3.63 であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .019$ であり、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくはない。しかし、平均が 3 点台の専攻が大半である事を考えると、スキル総合得点がより高くなるような工夫が望まれる。数学・情報理学の理系専攻は、昨年に引き続き、スキル総合得点が高専攻より低い傾向であり、今後の課題と言えよう。

スキル総合得点を、学年別および志望順位別に見ると、表 12 の結果となった。学年別では、4 年次のスキル総合得点が高学年より高く、また志望順位が高いほど得点が高くなるが、効果量を見ると、学年別では $\eta^2 = .021$ で、志望順位別では $\eta^2 = .011$ なので、それぞれの得点に大きな差があるわけではないことがわかる。入学後に身についたと感じる各スキルは、本学に対する志望順位が違う学生の間でもさほど顕著な差は見られない。

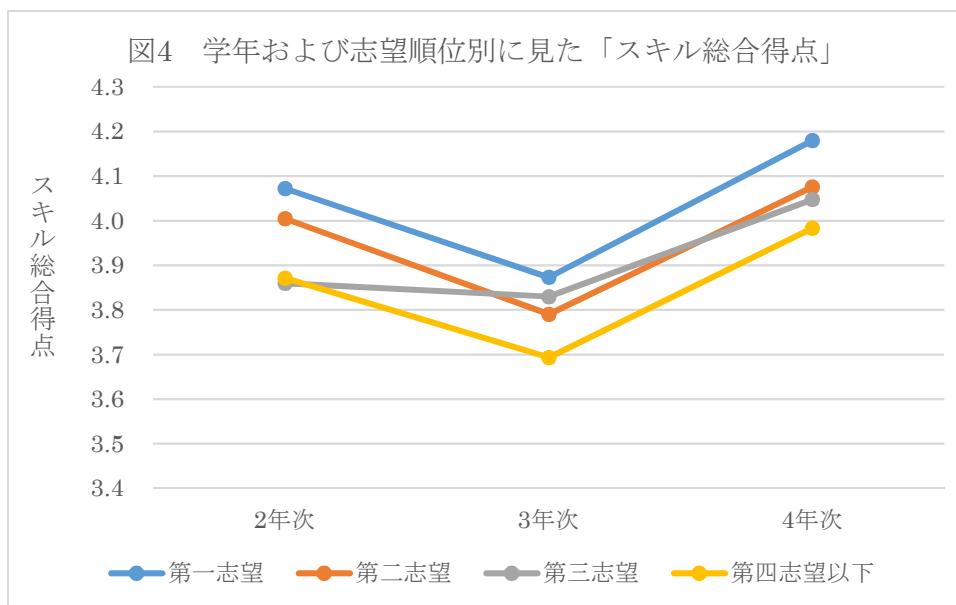
表 11 専攻別に見た授業に関するスキル総合得点

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.03	0.748	128	$\eta^2 = .019$
哲学	3.86	0.928	116	
日本文学	4.00	0.791	273	
歴史文化・史学	3.98	0.763	252	
英語文学文化	3.75	0.799	191	
国際関係	3.93	0.794	378	
経済学	3.92	0.797	199	
社会学	4.05	0.745	178	
コミュニティ構想	4.03	0.680	57	
心理学	4.13	0.690	214	
コミュニケーション	3.90	0.885	297	
言語科学	3.86	0.774	162	
数学	3.79	0.951	101	
情報理学	3.63	0.892	94	
合計	3.93	0.808	2640	

表 12 学年別および志望順位別に見た授業に関するスキル総合得点

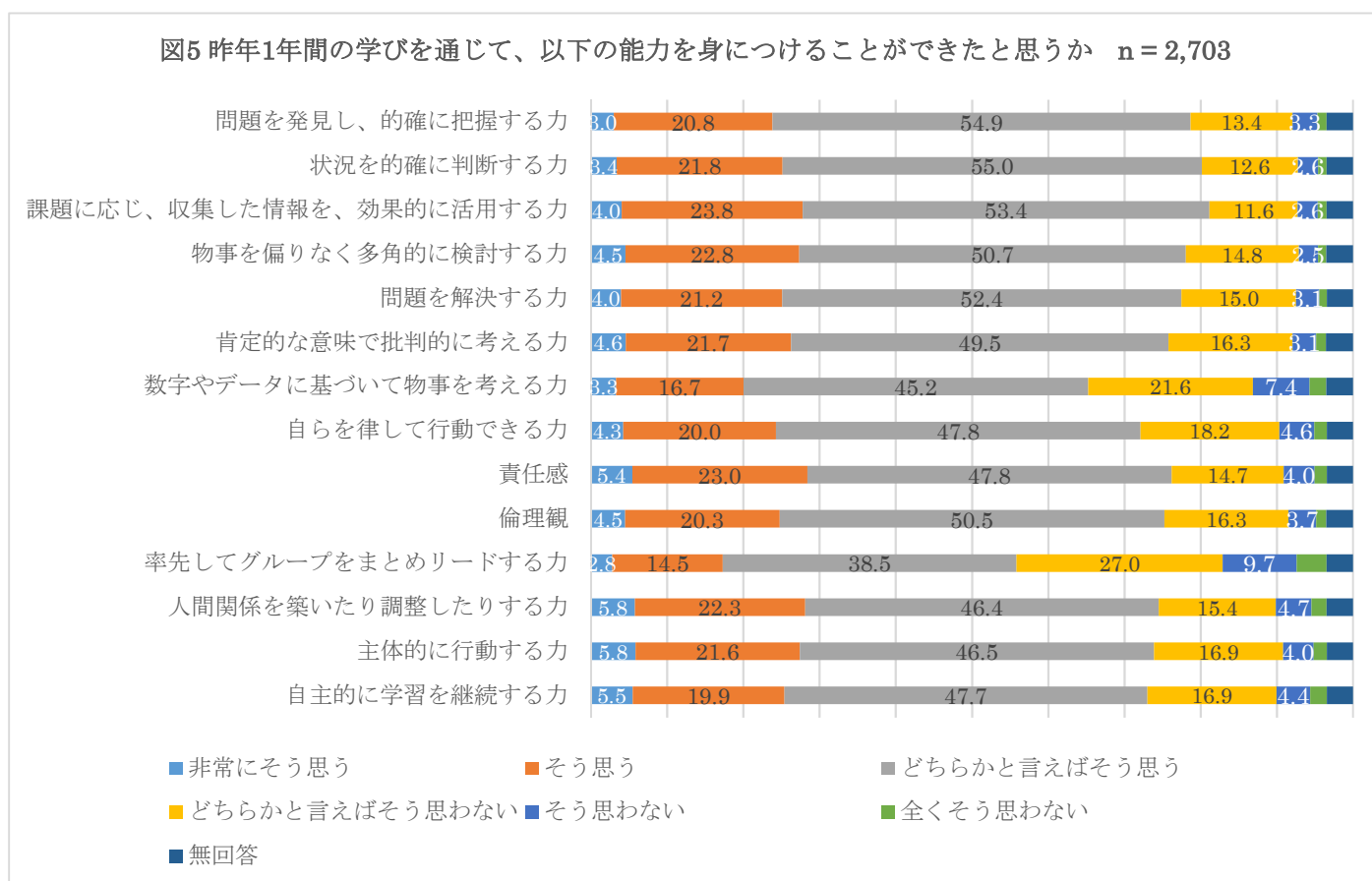
		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2 年次	3.95	0.752	929	$\eta^2 = .021$
	3 年次	3.78	0.843	850	
	4 年次	4.07	0.806	862	
志望順位	第一志望	4.05	0.807	764	$\eta^2 = .011$
	第二志望	3.97	0.825	396	
	第三志望	3.92	0.732	403	
	第四志望以下	3.84	0.821	1057	

学年および志望順位別に見たスキル総合得点を詳しく見るため、スキル総合得点を従属変数、学年および志望順位を独立変数とした2要因分散分析を行った(図4)。4年次のスキル総合得点が高学年よりも高く、それは志望順位によらないようだが、効果量を見ると、学年が $\eta_p^2 = .017$ 、志望順位が $\eta_p^2 = .010$ で、スキル総合得点に対する学年・志望順位の影響はあまり大きくなく、交互作用も見られなかった($\eta_p^2 = .001$)。



(3) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

昨年1年間の学びを通じて、以下の図5に示される14項目の能力を身につけることが出来たと思うかどうかを尋ねた結果を示す。ほとんどの項目で肯定的な意見が7割を超える結果となった。しかし、「率先してグループをまとめリードする力」は55.9%と他と比べても低い。2018年度の54.6%より増えているが、他の項目と比べて特に低いため、今後どうすれば増えていくか考えなくてはならない。ただし、この項目に関連すると考えられる「人間関係を築いたり調整したりする力」や「主体的に行動する力」は肯定的意見が7割を超えている。それにも関わらず、「率先してグループをまとめリードする力」の肯定的意見が低い原因が何か調べる必要がある。



上記14項目に対して因子分析を行った結果、一次元構造であることがわかった。そこで、この14項目の得点を合計し、それを項目数で割った項目平均を算出して「能力総合得点」(M=3.99, SD=0.750、最大=6、最小=1。α = 0.956)として以降の分析で用いた。

能力総合得点を専攻別に見ると（表 13）、心理学専攻の平均値が 4.08 となっており、他の専攻より若干高い。しかし、効果量は $\eta^2 = .006$ と小さく専攻間の差はさほど大きくないことがわかる。

能力総合得点を学年および志望順位で見た場合（表 14）、4 年次が他学年より高く、志望順位が高いほど能力総合得点も高くなったが、それぞれの効果量は学年間で $\eta^2 = .028$ 、志望順位間で $\eta^2 = .011$ と小さく、学年間・志望順位間の差は殆ど見られない。

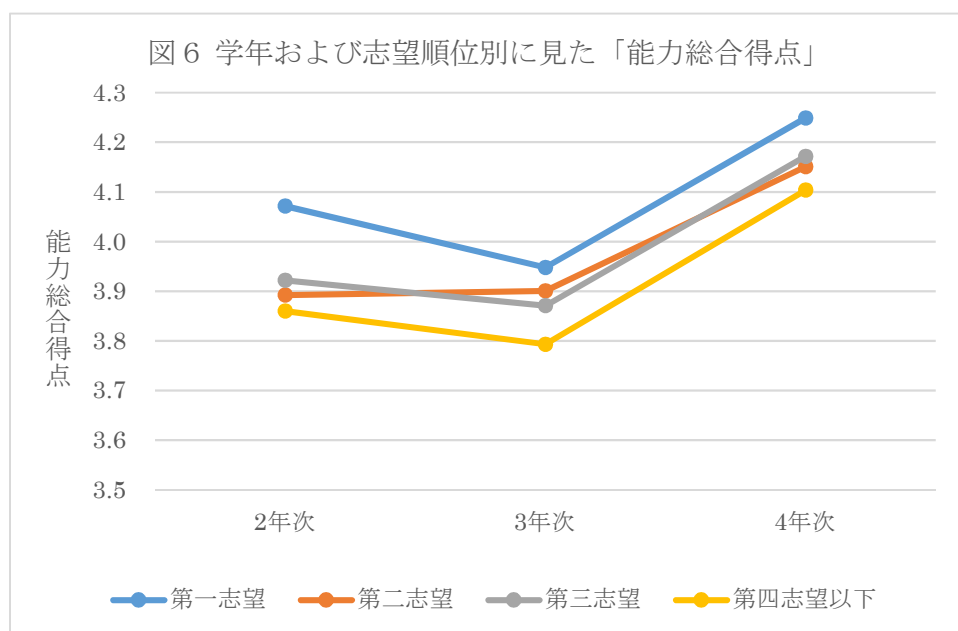
表 13 専攻別に見た能力総合得点

	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.02	0.713	126	$\eta^2 = .006$
哲学	3.91	0.890	115	
日本文学	4.00	0.745	264	
歴史文化・史学	4.01	0.763	248	
英語文学文化	4.00	0.752	187	
国際関係	3.99	0.722	378	
経済学	3.95	0.719	199	
社会学	4.11	0.646	174	
コミュニティ構想	3.94	0.670	57	
心理学	4.08	0.656	212	
コミュニケーション	3.93	0.828	295	
言語科学	3.94	0.708	162	
数学	3.98	0.930	101	
情報理学	3.85	0.785	94	
合計	3.99	0.750	2612	

表 14 学年別および志望順位別に見た能力総合得点

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2 年次	3.93	0.701	918	$\eta^2 = .028$
	3 年次	3.87	0.762	837	
	4 年次	4.16	0.759	858	
志望順位	第一志望	4.09	0.726	755	$\eta^2 = .011$
	第二志望	4.00	0.764	388	
	第三志望	3.99	0.689	398	
	第四志望以下	3.91	0.773	1051	

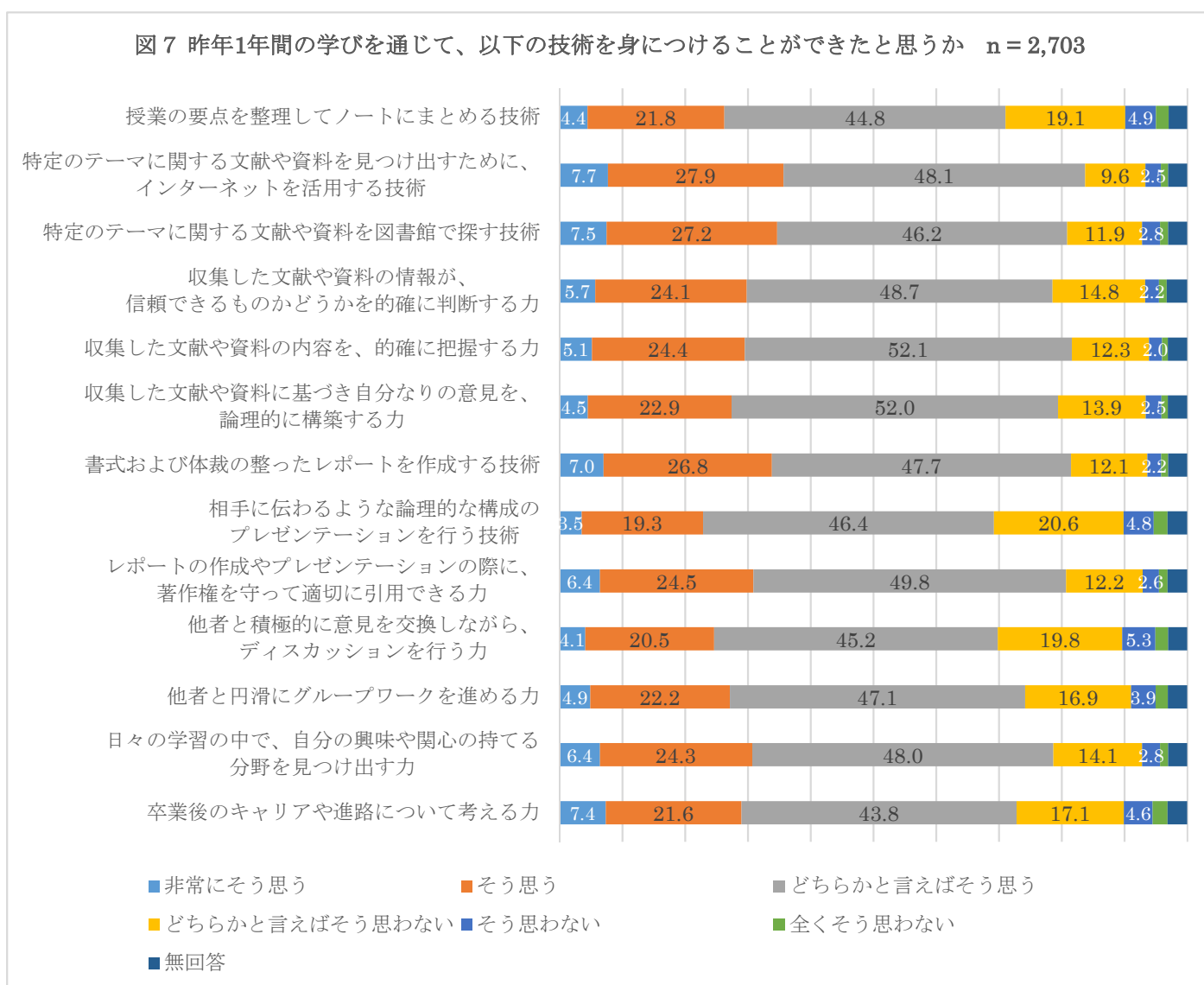
学年と志望順位に対する能力総合得点をもう少し詳しく見るために、学年および志望順位を独立変数、能力総合得点を従属変数にした2要因分散分析を行った。その結果が図6である。4年次の能力総合得点が、志望順位に関わらず他学年よりも高くなっていることが分かる。しかし効果量を見ると、学年では $\eta_p^2 = .024$ で志望順位では $\eta_p^2 = .009$ と低く、学年と志望順位の影響はあまり顕著なものではない。また交互作用も見られない($\eta_p^2 = .001$)。



(4) 身についた技術に関する項目の集計・分析結果

図7は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術13項目の分析結果である。「相手に伝わるような論理的な構成のプレゼンテーションを行う技術」と「他者と積極的に意見を交換しながら、ディスカッションを行う力」が他よりも低かったが、それぞれ69.2%、69.8%と7割近いため、今後に期待したい。

2018年度と比べると、「他者と積極的に意見を交換しながら、ディスカッションを行う力」を除き、肯定する回答の割合が増えている。上記の項目に関しても、69.8%と7割近くある。



前述13項目（無回答を除く）について、「非常にそう思う」=6、「そう思う」=5、「どちらかと言えばそう思う」=4、「どちらかと言えばそう思わない」=3、「そう思わない」=2、「全くそう思わない」=1として、因子分析（最尤法、プロマックス回転。）を行った結果を表15に示す。

第1因子は、「収集した文献や資料の内容を、的確に判断する力」、「収集した文献や資料の情報が信頼できるのかどうか的確に判断する力」、「特定のテーマに関する文献や資料を図書館で探す技術」など、課題を進めるにあたって必要な能力に関する項目が多かったため、この因子は「情報探索・処理に関する能力や技術」を表わすものと解釈できる。また、第2因子は、「他者と積極的に意見を交換しながらディスカッションを行う力」、「他者と円滑にグループワークを進める力」といった、学生生活を送る上で必要な項目に因子負荷量が高かったため、この因子は「学生生活スキル」を表わすものと解釈した。

表 15 昨年1年間の学びを通じて、身につけることができたと思う技術に関する項目の因子分析結果（最尤法、プロマックス回転。）

	F1	F2	共通性
情報探索・処理に関する能力や技術 ($\alpha = .939$)			
収集した文献や資料の内容を、的確に把握する力	0.893	0.024	0.830
収集した文献や資料の情報が、信頼できるものかどうかを的確に判断する力	0.872	0.006	0.769
特定のテーマに関する文献や資料を見つけ出すために、オンライン・データベース、ウェブサイト等、インターネットを活用する技術	0.871	-0.068	0.675
特定のテーマに関する文献や資料を図書館で探す技術	0.865	-0.053	0.683
収集した文献や資料に基づき自分なりの意見を、論理的に構築する力	0.737	0.163	0.751
書式および体裁の整ったレポートを作成する技術	0.631	0.222	0.658
授業の要点を整理してノートにまとめる技術	0.501	0.202	0.444
レポートの作成やプレゼンテーションの際に、著作権を守って適切に引用できる力	0.479	0.365	0.625
学生生活スキル ($\alpha = .895$)			
他者と積極的に意見を交換しながら、ディスカッションを行う力	-0.079	0.934	0.768
他者と円滑にグループワークを進める力	-0.069	0.921	0.757
相手に伝わるような論理的な構成のプレゼンテーションを行う技術	0.156	0.652	0.602
卒業後のキャリアや進路について考える力	0.218	0.522	0.491
日々の学習の中で、自分の興味や関心の持てる分野を見つけ出す力	0.368	0.483	0.636
因子間相関	0.752		

第1因子に負荷量の高かった7項目の得点を合計し項目数で割った「情報探索・処理得点」（ $M=4.15, SD=0.769, \alpha = .939$ ）と、第2因子に負荷量の高かった6項目の得点を合計し項目数で割った「学生生活スキル得点」（ $M=4.00, SD=0.829, \alpha = .895$ ）を作成し、以降の分析に利用した。

まず、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術に関する得点を、専攻別に比較した（表16）。表16から、情報探索・処理得点、学生生活スキル得点とも専攻間の差は小さいことがわかる（情報探索・処理得点の効果量 $\eta^2 = .015$ 、学生生活スキル得点の効果量 $\eta^2 = .016$ ）。

学年別の情報探索・処理得点と学生生活スキル得点を比較すると表17に示す通り、3年次に一旦下がるものの、学年が上がるにつれて得点が大きくなっていく傾向と言えるだろう。しかし効果量を見ると、情報探索・処理得点、学生生活スキル得点でそれぞれ $\eta^2 = .022$ 、 $\eta^2 = .032$ と小さく、学年間の差は顕著でない。

表16 昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術に関する専攻別比較

	情報探索・処理得点				学生生活スキル得点			
	人数	平均値	標準偏差	効果量	人数	平均値	標準偏差	効果量
国際英語	127	4.16	0.696	$\eta^2 = .015$	126	4.17	0.759	$\eta^2 = .014$
哲学	115	4.14	0.869		116	3.90	0.978	
日本文学	269	4.26	0.767		269	4.02	0.764	
歴史文化・ 史学	248	4.32	0.785		248	3.99	0.874	
英語文学文化	188	4.18	0.792		188	3.96	0.841	
国際関係	372	4.13	0.755		370	4.00	0.792	
経済学	196	4.10	0.742		198	4.00	0.792	
社会学	176	4.21	0.689		175	4.14	0.731	
コミュニティ 構想	54	4.11	0.737		57	4.13	0.645	
心理学	210	4.22	0.676		211	4.14	0.763	
コミュニ ケーション	293	4.04	0.798		295	3.94	0.851	
言語科学	161	4.07	0.769		162	3.93	0.900	
数学	100	3.97	0.904		101	3.85	1.001	
情報理学	93	3.97	0.773		93	3.72	0.874	
合計	2602	4.15	0.770		2609	4.00	0.829	

表17 身につけることができたと思う技術に関する学年別比較

	学年	人数	平均値	標準偏差	効果量
情報探索・処理得点	2年次	917	4.11	0.723	$\eta^2 = .022$
	3年次	831	4.04	0.790	
	4年次	855	4.31	0.774	
学生生活スキル得点	2年次	916	3.96	0.760	$\eta^2 = .032$
	3年次	840	3.84	0.844	
	4年次	854	4.20	0.844	

最後に、志望順位別の情報探索・処理得点と学生生活スキル得点の比較の結果を表 18 に示した。志望順位が上がるほど情報探索・処理得点および学生生活スキル得点が増える結果となった。効果量を見てみると、情報探索・処理得点で $\eta^2 = .015$ 、学生生活スキル得点で $\eta^2 = .009$ と低いため、志望順位と情報探索・処理得点および学生生活スキル得点の間には、強い関係性は見られない。

表 18 身につけることができたと思う技術に関する志望順位別比較

	志望順位	人数	平均値	標準偏差	効果量
情報探索・処理得点	第一志望	750	4.26	0.762	$\eta^2 = .015$
	第二志望	393	4.22	0.784	
	第三志望	398	4.16	0.714	
	第四志望以下	1042	4.05	0.779	
学生生活スキル得点	第一志望	756	4.09	0.821	$\eta^2 = .009$
	第二志望	392	4.05	0.883	
	第三志望	400	4.00	0.760	
	第四志望以下	1042	3.91	0.831	